

## “偽ニュース”についてどう対処するか

【訳者注】政治家や、ニューヨーク・タイムズやワシントン・ポスト、それに大手テクノロジー企業（これは科学的事実を決定する！）が一緒になって、“偽ニュース”を排除するための権威ある機関を作ろうとしているという。ちょっと目を疑ったが、別のサイトに、「偽ニュースというなら、アメリカ政府が最大の犯行者だ」（John W. Whitehead）という論文があって、間違いのないようだ。これはオーウェルの小説『1984』の“真理省”を地でいくもので、あきれられる話だが、米政府（ただしオバマの）としては真剣なのであろう。あきれられる理由の一つは、その機関の中に「ベリングキャット」という悪名高い、民間の調査機関が入っていることである。これについては、<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/150606.pdf> をご覧いただきたい。

何が本物で、何が偽物かの判断の問題は、別の場所で論じたいと思う。

何度も同じことを言うが、日本政府はウクライナの問題を誤解しているようなので、この結びの箇所を読んでいただきたい。この場合は盗聴電話という動かせぬ証拠が残っている。

Robert Parry

November 19, Consortium News

*多様な意見や異なった情報へのアクセスを、世界に提供することで成功したインターネットに対して、ある巻き返しが起こっている。政治家、主流メディア、それにテクノロジー巨人たちが、彼らが“偽ニュース”と呼ぶものを攻撃しようとしている。*

ドナルド・トランプの勝利に続いて、ホット・ニュースになっているのは、インターネット上で拡散される“偽ニュース”の問題である。これは、木曜日に、ある国際的な場所でオバマ大統領が提起し、金曜日のニューヨーク・タイムズで大きく報道された。

グーグルやフェイスブックのような、大手のインターネット会社は、こうした記事を検閲し、違反者とされる者たちを罰するように要請されている。また、“責任ある”ニュース提供者（とされる者）や、テクノロジー巨人が、問題と判断されたものを取り調べ、何が真実で、何が真実でないかを決定するために招集されている。

しかし、そこには最も深刻な問題が横たわっている——何が本当で、何が本当でないかを、誰が決めるのか？ しかも、両サイドがプロパガンダ合戦にたずさわっているこの時代に、

主流メディアの“真理”をどこまでも支持して従うなら、正当な懐疑も禁じられるではないか？

40年以上ジャーナリストをやってきた者として、私は、発表する前にできる限り情報を確かめるといふこの職業の責任を、真剣に考えている。そして Consortiumnews.com の編集者として、我々の執筆者（と、できる限り外部のコメンテーター）が、自分の記事のウラを取るように要求している。

私は個人的には「陰謀論」を憎む。それは人々がある話題について、真の証拠なしに、たいていは現実の証拠に逆らって憶測するからである。私は、データを徹底的な調べ、常識を働かせる、伝統的なジャーナリズムの規範を信じている。

だから私は、インターネットのペテンや、根拠のない非難中傷を好きではない。にもかかわらず、私は同時に、アメリカの主流ニュース媒体もまた、恐ろしい結果を及ぼす、大規模な、事実の間違いを犯したと認識している。例えば、2002-03年の、イラクが核兵器プログラムを作り直して（NY タイムズ）、大量の大量破壊兵器を隠している（ワシントン・ポストを始め、多くのテレビや新聞）という報道である。

そして、主流メディアが、このような生死にかかわる物語を間違えて報道したのは、イラクの侵略をめぐって起こった、単に一回限りのことではなかった。少なくとも1980年代以来、NY タイムズは、多くの国際的問題について、アメリカやその同盟国の汚点となる、間違っただけの報道と解説をしてきた。

例えば、タイムズは、ニカラグア・コントラのコカイン・スキャンダルを、報道しなかっただけでなく、レーガン政権のこの悪事における役割を、1980年代から1990年代の大半にわたって、積極的に隠ぺいした。

<https://consortiumnews.com/2014/10/09/the-sordid-contra-cocaine-saga/>

タイムズはまた、イラン・コントラ事件と後に呼ばれた、この秘密の作戦を調査することに、ひどく怠慢だった。タイムズが公的否定を鵜呑みにしたことが、このレーガン政権による憲法危機や他の違法を深く知ろうとする我々にとって、障害となった。（これについてさらに詳しくは、Consortiumnews.com “New York Times: Apologist for Power”）

<https://consortiumnews.com/2016/11/07/new-york-times-apologist-for-power/>

同じころ、ワシントン・ポストも似たようなことをやっていた。コントラ - コカイン・スキャンダル当時の、その編集重役であった Leonard Downie は、ロナルド・レーガンの庇った

コントラが、コカインを取引していたという事実を拒否し続けている——CIA 調査官 Frederick Hitz が、コントラの多くの者はコカイン取引に首まで浸かっており、レーガン政権は、地政学的理由で、彼らの犯罪を隠ぺいしていたという裁定を、1998 年に出しているにもかかわらず。 <https://consortiumnews.com/2014/10/28/how-the-washington-press-turned-bad/>

より新しくは、2002-03 年のイラク侵略の猛進が起こっていたとき、ポスト紙の社説編集者 Fred Hiatt は、イラクが大量破壊兵器を隠し持っていると、当然の事実のように書き続け、この「集団思考」を疑問とする少数者の異論を嘲笑した。

<https://consortiumnews.com/2013/03/19/why-wposts-hiatt-should-be-fired/>

にもかかわらず、ハイアットはこのウソに対する責任を認めず、現在も、ポスト紙の同じ職にあり、ワシントンの伝統的な、怪しげな知恵を売りつけている。

<https://consortiumnews.com/2016/04/07/a-media-unmoored-from-facts/>

## “真理省”

では、世界の民衆が見聞きするものを、統制する責任者に任命されるべき“責任ある”ジャーナリストとは、誰々なのか？ そのオーウェル流の任務に、真理省というべき **First Draft Coalition**（第一草稿連合体）なるものがグーグルによって設立され、それは 30 の大手ニュースおよびテクノロジー会社の集合だと自称している。そこにはタイムズやポストが含まれ、“偽ニュース”と取り組み、どの物語が怪しいか、怪しくないかを定める、要綱が制作されることになっている。

<http://fortune.com/2016/09/13/facebook-twitter-join-first-draft-coalition/>

<https://medium.com/1st-draft/social-networks-unite-with-global-newsrooms-to-take-action-against-misinformation-online-875a53a8de4b#.vorjvo18u>

2015 年 6 月に形成され、Google News Lab の出資による「第一草稿連合体」の創設者たちには、Bellingcat が含まれていた。このオンライン“市民ジャーナリズム”サイトは、多くの最もよく知られた物語を歪めて伝え、現在は、NATO の好きなシンクタンク、Atlantic Council と提携している。

ベリングキャットの間違いだらけの実績にもかかわらず、またアトランティック・カウンシルとの利害の衝突にもかかわらず、タイムズやポストを含む主要な西側メディアは、ベリングキャットを取り込んだ。理由はおそらく、その記事がいつも、シリアやウクライナについての、アメリカやヨーロッパのプロパガンダと、うまく合うからだろう。

ベリングキャット（あるいは、その創設者 Eliot Higgins）の2つの最大の間違ひは、2013年8月21日の、サリン・ガスを積んだシリアのロケットと思われているものの、発射地点の取り違えと、2014年7月17日のマレーシア航空機 MH-17 の撃墜の後、オーストラリアのニュース班を、いわゆる逃走 Buk のビデオ撮影のために、間違った場所へ導いたことである。<https://consortiumnews.com/2015/10/20/mh-17-case-old-journalism-vs-new/>  
<https://consortiumnews.com/2015/05/28/a-reckless-stand-upper-on-mh-17/>

しかし多くの、体制派の“集団思考”を支持するニュース・メディアと同じく、ベリングキャットは幅広い称賛と公的な認定を受けていて、例えば、国際 MH-17 調査団は、ウクライナの疑わしい情報局 SBU に大きくコントロールされ、ベリングキャットのロシアを非難する怪しげな MH-17 証拠を受け入れている。

<https://consortiumnews.com/2016/09/28/troubling-gaps-in-the-new-mh-17-report/>  
<https://consortiumnews.com/2016/09/29/the-official-and-implausible-mh-17-scenario/>

## 権力と現実

政治的な運動が白熱したり、戦争のときには、間違った、また怪しげな物語がつくり出されるのは否定できないが——そしてジャーナリストは、可能な限り事実をチェックする役目を持つが——潜在的により大きな危険があるのは、メディアのインサイダーが、反対の証拠を受け入れ難いとして一蹴する権威を詐称するときで——特に彼らが過去に、完全に間違いでなくても、怪しいと判明した物語を発表したことがあれば、なおさらである。

それよりもさらに危険なのは、これら真理の判定者を自称する者が、強力なインターネットの検索エンジンや社会メディア会社と協力し合って、反対意見や逆の事実の在りかを見つけて出せないようにして、それを実質的に禁圧するときである。

## 情報戦争 (Info-War)

この“偽ニュース”について、新しい警鐘が、シリアやウクライナ紛争に関する、米政府のロシアに対する“情報戦争”の只中で起こっている。オバマの国務省は、自分の方はこれらの紛争について真実を述べているが、ロシアの RT チャンネルは誤情報の泉だと主張する。しかし国務省のプロパガンダ担当官は、彼ら自身、ウソまたは根拠のない主張をしている。

水曜日、国務省報道官の John Kirby は、ロシアの RT のジャーナリストからの当然の質問に答えることを拒否することによって、見苦しい場面を演じた。

<http://www.state.gov/r/pa/prs/dpb/2016/11/264370.htm>

RTのジャーナリストは、カービーに、彼が主張している、ロシアとシリアの空爆を受けたシリアの病院と診療所は、どこにあるのか示してほしいと言った。本当のことを言っている人なら、その機会を与えられたことを歓迎し、チェックして確かめることのできる更なる詳細を喜んで示すだろうと、普通は考える。

しかし、カービーはそうしないで、RTのジャーナリストを叱り、国務省への記者団の他の者たちを、彼女に敵対させようとした。

質問：ロシアが攻撃したと、あなたが非難しておられる病院の、特定の明細を示しているただくのが重要だと思われませんか？ これは深刻な告発です。

カービー：私は告発しているのではありません。私は信用できる支援組織からの報告を見たと言っているのです、それは5つの病院と1つの診療所が――

質問：どの病院ですか？

カービー：少なくとも1つの診療所――

質問：少なくとも何市のですか？

カービー：情報局へ行ってみられたら、多くのシリアの救護組織が公開していることがわかります。我々もそこから情報を得ているのです。これらの報告は――

質問：しかしあなたは、特定のものを示さずにその報告を引用しています。

カービー：それは、我々がこれらの機関が信用できると考えているからです。そして他にも、これらの報告にあるものをバックアップする情報源があります。あなたはわかっているでしょう。なぜ訊ねるのですか？ …私の方から訊ねたい。あなたは自分の防衛省にどうして聞いてみないのですか？ 彼らが何をしているのか、聞いてみたら…

質問：あなたが特定の明細を示してくれたら――

カービー：ノー、ノー、ノー、ノー、ノー。

質問：病院の特定の明細を示してくれたら――

カービー：ノー、ノー、ノー。

質問：これを聞いている私の同僚が、きっとロシアの関係局へ行って、あなたが非難している病院の特定の明細について、訊ねることができると思いますよ…

カービー：あなたはロシア・トゥデイの方でしょう。そうではないですか？

質問：その通りです、はい。

カービー：だったら、どうしてあなたは、ここに立って私に訊ねている同じ質問を、自分の政府に訊ねてみないのですか？ 彼らの軍事行動を彼らに訊ねてください。彼らは何をしているか、あるいは何をしていないと否定するかを、聞き出したらどうですか？

質問：私が明細を見せてくれと言っているのに、あなたの答えは、なぜこんなところに私がいるのか、ということのようですね。そうやって私を非難するわけですか？

カービー：そんなことはありません。

質問：だから、もしあなたが明細を示してくれたら、私の同僚がロシアの官庁に訊ねることができるということです。

カービーが RT 記者を叱り、彼女の明細の要求を拒否し続けているとき、あるアメリカの報道記者が割って入り、カービーの「“あなたの防衛省” とか、そんな言い方はおかしい。私の言っているのは、彼女はジャーナリストで、ここにいる他の我々と同じということです、彼女は的をついた質問をしているということだ。しかしそれは…」

するとカービーは、RT は「国家の所有するメディア」だから、そこの記者は「独立したメディアを代表しておられる、ここの他の方々と同じレベルで扱う」ことはできないと主張した。(しかし実は、ボイス・オブ・アメリカも、BBC も、他の多くの西側のメディアも、政府の財政か、イデオロギーをもつ支援者によるものである。)

## 公共外交

カービーの、アメリカやその同盟国の主張に関する、もっともな質問に向けられる敵意は、オバマの国務省に典型的なものになっていて、彼らは自分の描く現実像へのどんな挑戦も望まないようだ。

例えば、2014年のウクライナ危機の初期段階で、国務長官ジョン・ケリーは、RTを“プロパガンダ・ブルホーン”（ハンドマイク）と呼び、公共外交担当国務次官のRichard Stengelは、“DipNote”を発行して、RTはニセ情報のソースとして追放しなければならない、と言った。<https://consortiumnews.com/2014/05/01/whos-the-propagandist-us-or-rt/>

しかしステンゲルの告発は、ウクライナの選挙された大統領ビクトル・ヤヌコビッチを倒した、2014年2月の暴動を取り巻く状況について、彼が驚くほどに無知だったことを明らかにした。

例えばステンゲルは、アメリカがウクライナの“政権交代”を進めるために、50億ドルを投じたというRTの報道を、“笑うべき主張”だと言った。ステンゲルは、欧州担当国務次官ビクトリア・ヌーランドが、2013年12月3日、アメリカとウクライナのビジネス・リーダーたちへの公的演説で、ウクライナの「ヨーロッパ野望」を支援する、50億ドルという額を口にしたのを知らなかったらしい。

<http://www.informationclearinghouse.info/article37599.htm>

その当時、ヌーランドは、ウクライナの“政権交代”の主導的な提唱者で、マイダンのデモンストレーションに個人的に拍手を送り大喜びした。盗聴された、ウクライナへの米大使Geoffrey Pyattとの、下品な言葉の入った電話会談の中で、ヌーランドは、ウクライナを導かせる人物の彼女の選択は“Yats is the guy”、ヤツェニュークだと言っており、その通り、彼がクーデタのあと首相になった。

だからステンゲルが、RTは偽ニュースを撒きちらしていると言って非難したとき、彼自身が偽ニュースの配達者だったのか、それとも、単にプロパガンダ材料を集めて、彼の部下が、騙されやすい西側ニュース・メディアにそれを教えるようにしたのか——それとも彼は完全に誤解していたのだろうか？

デモクラシーもジャーナリズムも、いい加減なものであり得る。そして信用性というものは、時間をかけて信頼の評判を築き上げることによって勝ち取るべきものである。信頼性を保証する、体制から与えられる“太鼓判”のようなものはない。

アメリカや世界の人々に可能な限り正確な情報を与えるために、最善を尽くすということ

は絶対に重要なことである。それに対する報酬である信頼は、何が本当で、何がウソかの、究極の審判であるはずの個々の読者に任せるのが最善である。